

InterSec/LB400I2

セットアップ手順説明書

InterSec/LB400I2

InterSec/LB400I2 アプライアンスパック (S)

InterSec/LB400I2 アプライアンスパック (M)

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2020 年 5 月	新規作成。

法的情報

- Copyright © NEC Corporation 2020
- NEC、NECロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。
- CLUSTERPRO® Xは日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- そのほかの会社名ならびに商標名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTMや®は明記していません。
- 本書の内容は、日本電気株式会社が開示している情報の全てが掲載されていない場合、または他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合があります。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。本書の制作に際し、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、日本電気株式会社はこれらの情報の内容が正確であるかどうか、有用なものであるかどうか、確実なものであるかどうか等につきましては保証いたしません。また、当社は皆様がこれらの情報を使用されたこと、もしくはご使用になれなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。本書のいかなる部分も、日本電気株式会社の書面による許可なく、いかなる形式または電子的、機械的、記録、その他のいかなる方法によってもコピー再現、または翻訳することはできません。

目次

1 章 はじめに	2
2 章 インストール	3
2.1. RAID 構成の構築	3
2.2. インストールディスクによる本体設定	4
3 章 初期セットアップ	5
3.1. 初期 IP アドレスの設定	5
3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順	7
3.1.2. クライアント PC による手順	12
4 章 初期導入	17
4.1. 初期導入について	17
4.2. 初期導入の流れ	17
4.2.1. 初期導入の準備	18
4.2.2. 初期導入画面への接続	18
4.2.3. 初期導入の実行	20
5 章 注意事項	23
6 章 付録	24
6.1. LAN ポートとインタフェース (eth) 番号について	24
6.2. ESMPRO/ServerAgentService を利用する	25
6.3. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する	26
6.4. RAID 構成を確認する	27

ごあいさつ

このたびは、アプライアンスソフトウェア製品である InterSec/LB400I2(以下、LB400I2)をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

アプライアンスソフトウェア製品とは、特定のExpress5800サーバにインストールすることで、オペレーティングシステムと必要なアプリケーションを集約する製品です。

堅牢なセキュリティ機能が安全で高速なネットワーク環境を提供いたします。また、セットアップのわずらわしさを感じさせない専用のセットアッププログラムやマネージメントアプリケーションは、お客様の一元管理の元でさらに細やかで高度なサービスを提供します。

LB400I2は複数台のWebサーバへのトラフィック（要求）を整理し、負荷分散によるレスポンスの向上を目的としたNECのInterSec製品の1つです。

本書は、初期導入を含むセットアップ手順を中心に構成されています。本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

LB400I2 は以下のサーバ製品でのご使用が可能です。

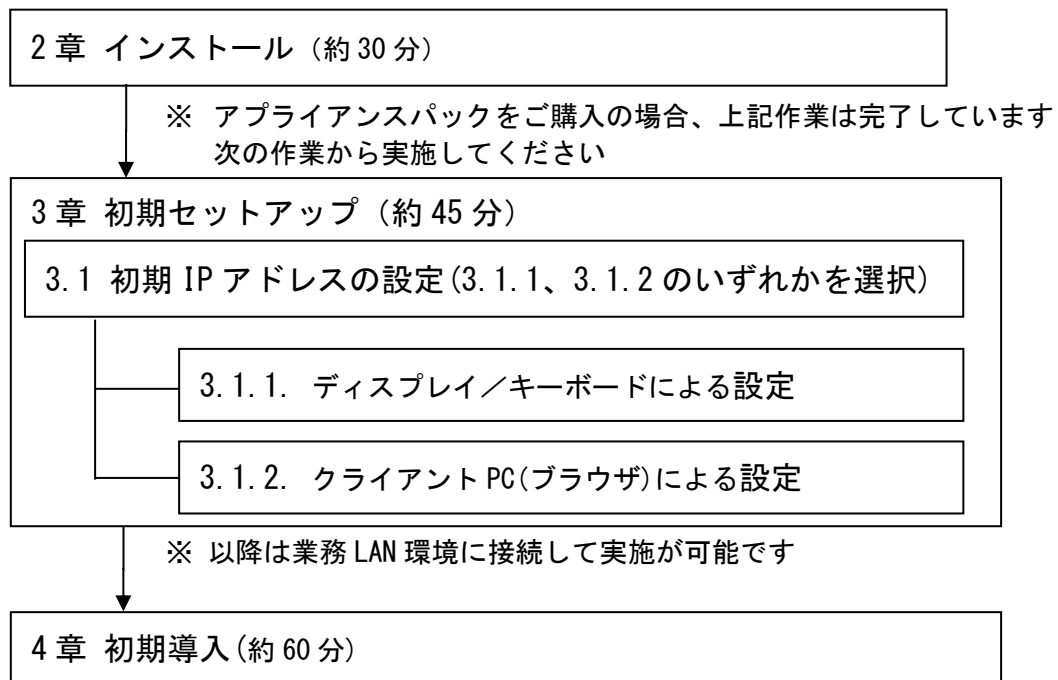
- N8100-2766Y / Express5800/R110j-1

1章 はじめに

本書では、LB400I2のインストール、初期セットアップ（初期IPアドレスの設定手順）と初期導入手順について説明します。

初期導入では、LB400I2 をお客様環境で導入するための準備作業を行います。
インストールから初期導入までの流れは以下のとおりです。

※ この時点では業務 LAN 環境には接続しないでください。



上記の時間は合計所要時間（目安）です。導入において確保するディスク領域によっては、時間が前後する場合があります。

2章 インストール

LB400I2をハードウェアにインストールします。



アプライアンスパックをご購入のお客様は、本作業は完了しています。
「3章 初期セットアップ」に進んでください。

単体ディスク構成で構築されている場合は、「2.2. インストールディスクによる本体設定」に進んでください。RAID 構成で構築されている場合は、以下をご確認の上「2.1. RAID 構成の構築」または「2.2. インストールディスクによる本体設定」に進んでください。

2.1. RAID 構成の構築

通常のExpress5800シリーズ（RAID構成時）では、出荷時にRAID構成が完了していますので本作業は不要です。 RAID構成の状況が不明な場合は、「6.4. RAID構成を確認する」の手順に従いRAIDの構成を確認してください。RAID構成に関する論理ドライブの構成手順についての詳細は、「メンテナンスガイド」の「2章(5. RAID システムのコンフィグレーション）」や、オプションのRAID コントローラーに添付の説明書を参照してください。

2.2. インストールディスクによる本体設定

「インストールディスク」を使って初期 IP アドレスが設定できるように準備します。以下の手順を行ってください。

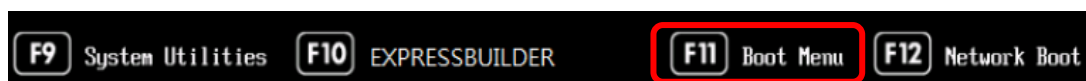


再度、インストールディスクによりセットアップ手順を実行する場合は、装置内の全データが消去されます。必要なデータが装置内に残っている場合は、データのバックアップを行ってから操作を実行してください。

- (1) 「インストールディスク」から起動します。

本体装置の POWER スイッチを押して電源を ON にし、「インストールディスク」を本体装置の光ディスクドライブに挿入してください。

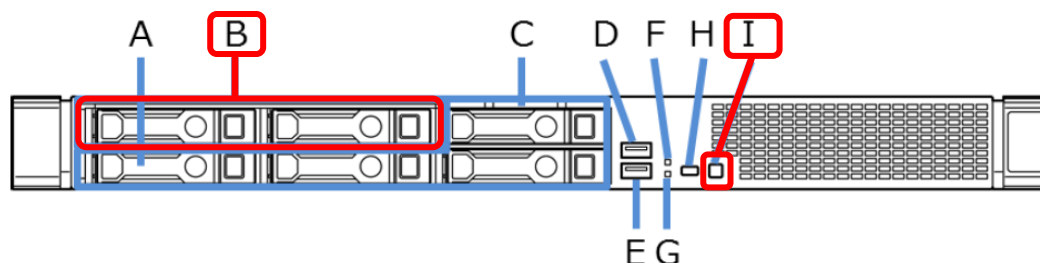
UEFI (BIOS) 画面から、「F11 Boot Menu」を選択します。



Boot Menu が開いたら「Embedded SATA Port* CD/DVD ROM:HPE DVDROM DUD00N」を選択しインストールを行います。

- N8100-2766Y / Express5800/R110j-1

4x 2.5 型ドライブモデル正面図



凡例

A.	2.5 型 HDD ケージ(標準)	F.	Health ランプ
B.	光ディスクドライブ	G.	LINK/ACT ランプ
C.	スライドタグ	H.	UID スイッチ/ランプ
D.	サービスポート	I.	Power スイッチ/ランプ
E.	USB3.0 ポート		

※ InterSec 製品では「B」位置には光ディスクドライブが搭載されています。



インストールディスクから起動すると無条件に初期セットアップを実行します。本装置を含め DVD ドライブにインストールディスクを挿入したままにしないでください。

(2) 約30分でインストールが完了します。

インストールが完了するとディスクが自動的にイジェクトされシステムが停止します。

「インストールディスク」を取り出し DVD ドライブを閉じてください。

30 分以上待っても DVD がイジェクトされず、DVD へのアクセスも行われていない場合は本体設定に失敗している可能性があります。

失敗していると考えられる場合は、再度、(1)に戻り本体設定を再度実施してください。



セットアップが終了しない（失敗する）場合

- ・ RAID 環境の状態が正しいか確認してください（「6.4. RAID 構成を確認する」参照）
- ・ ハードウェアが以下のいずれかであるか確認してください。
Express5800/R110j-1 (N8100-2766Y)

再起動は、次章以降で実施しますので、電源ONはしないでください。

3章 初期セットアップ

LB400I2をお客様のネットワーク環境に接続するため、初期セットアップ（初期IPアドレス設定）が必要となります。初期セットアップ後に、お客様ネットワーク環境に接続し、初期導入を行います。初期導入については、「4章 初期導入」を参照してください。

3.1. 初期 IP アドレスの設定

本体設定後のLB400I2のネットワーク構成は、以下のとおり設定されています。

LAN インタフェース	: LAN1 (eth0)
IP アドレス	: 192.168.250.250
ネットワークマスク	: 255.255.255.0
ホスト名	: intersec.domain.local

お客様のネットワーク環境に応じたネットワーク構成で初期導入を行えるようにするために、初期IPアドレスを変更することができます。

初期IPアドレスを変更しない場合は、「4章 初期導入」へお進みください。

初期 IP アドレスの変更には、以下の2種類の方法があります。

お客様環境に合わせて、いずれかの手順を実施して初期導入へとお進みください。

(1) ディスプレイ／キーボードによる手順

本体装置に接続したディスプレイとキーボードを使って、初期IPアドレスを指定後、初期導入へ進むことができます。

詳細は「3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順」をご覧ください

(2) クライアントPC(ブラウザ)による手順

本体装置とLAN接続したクライアントPC(Windowsマシン)のブラウザ画面から初期IPアドレスを指定後、初期導入へ進むことができます。

詳細は「3.1.2. クライアントPCによる手順」をご覧ください

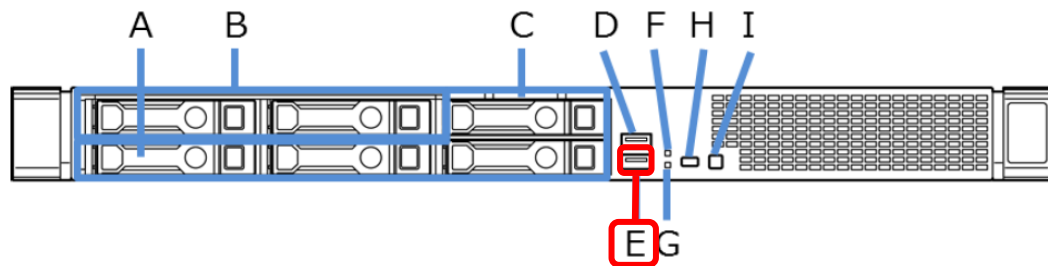
3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順

ディスプレイ、キーボードを本体装置に接続してください。接続後、本体装置の電源ボタンを押して起動してください。

ディスプレイ、キーボードの接続は以下の図を参照してください。

- N8100-2766Y / Express5800/R110j-1

4x 2.5 型ドライブモデル正面図

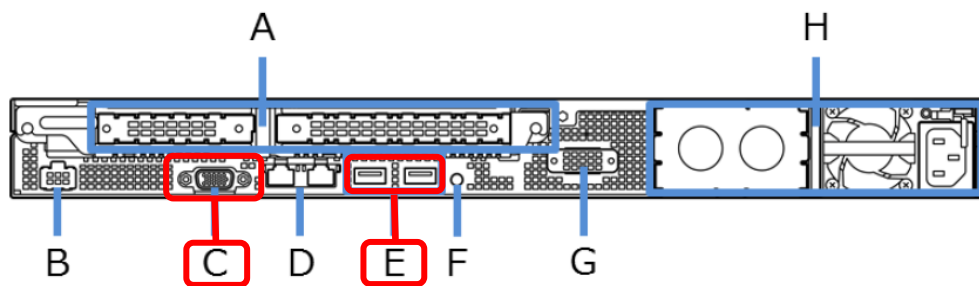


凡例

A.	2.5 型 HDD ケージ(標準)	F.	Health ランプ
B.	光ディスクドライブ	G.	LINK/ACT ランプ
C.	スライドタグ	H.	UID スイッチ/ランプ
D.	サービスポート	I.	Power スイッチ/ランプ
E.	USB3.0 ポート		

※ InterSecs 製品では「B」位置には光ディスクドライブが搭載されています。

背面図



凡例

A.	PCI スロット(オプション)	E.	2x USB3.0 ポート
B.	管理用 LAN コネクタ(オプション)	F.	UID ランプ
C.	ディスプレイコネク	G.	シリアルポート(オプション)
D.	NIC ポート	H.	電源ユニット(オプション)

3.1.1.1. LB400I2 へのログイン

LB400I2 が起動すると以下のログイン画面が表示されます。

※コンソールが開き、LB の WBMC 画面は表示されません。

```
Red Hat Enterprise Linux Server 7.5 (Maipo)
Kernel 3.10.0-862.14.4.el7.x86_64 on an x86_64

intersec login:
```

ログイン名「root」でログインしてください。

ログインユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : root

パスワード : **初期パスワード(※)**



- ・ ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・ 初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

3.1.1.2. 初期 IP アドレスの変更

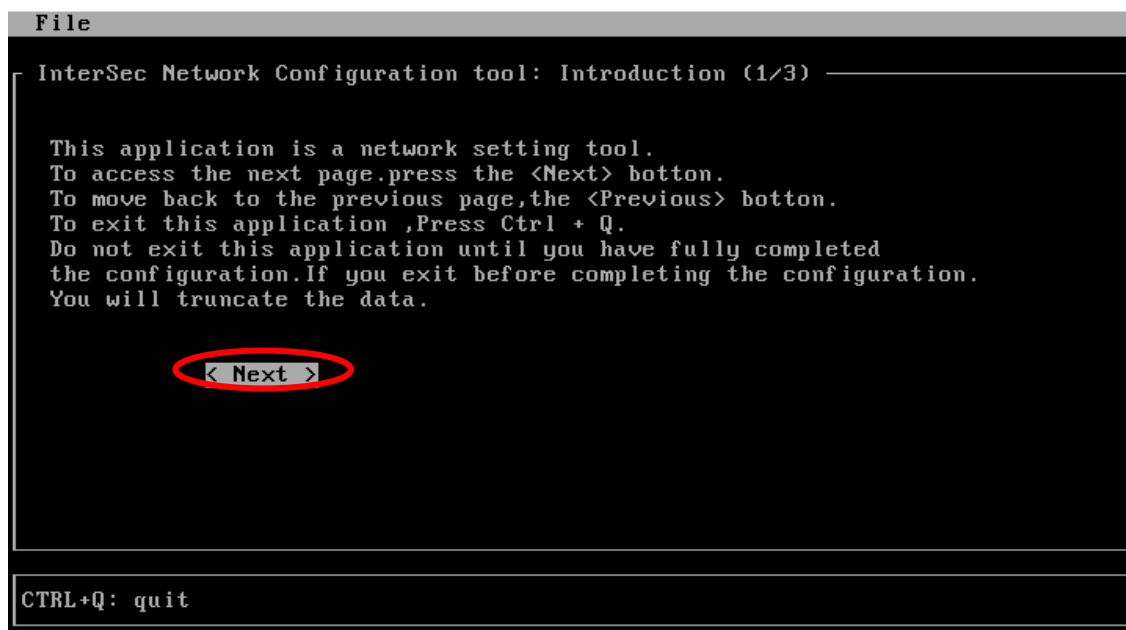
(1) 初期IPアドレス変更コマンドの実行

root アカountのプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
intersec-init-c
```

(2) イン트로ダクション画面が表示されます

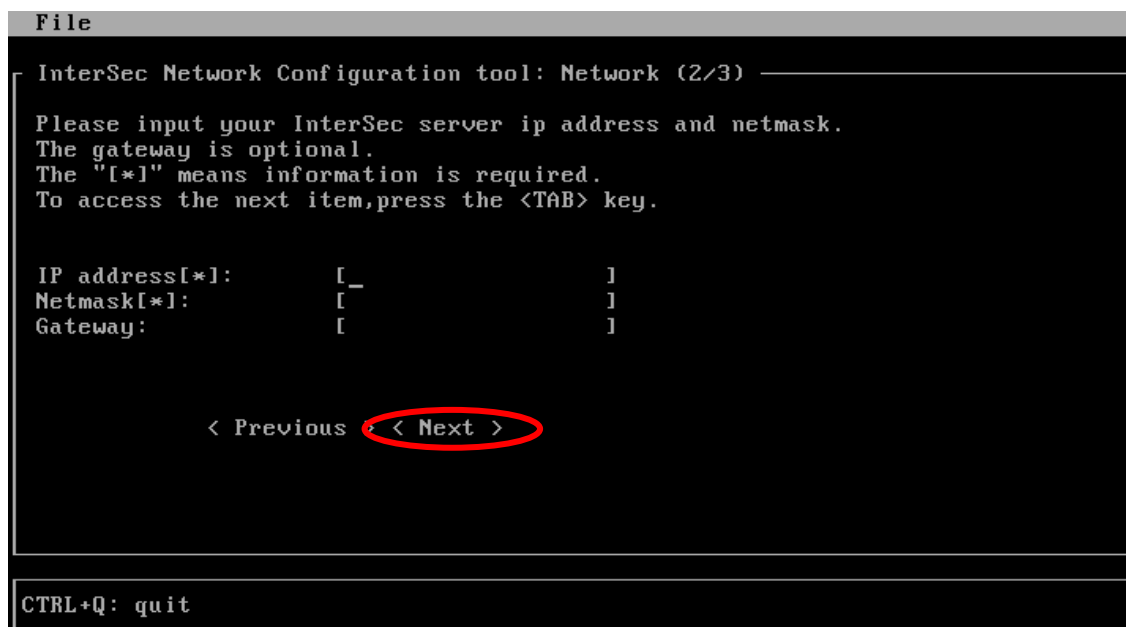
[< Next >]を選択（[Enter]キーを押下）してください。



(3) IPアドレス情報の入力画面が表示されます。

IP アドレス (IP address[*])、ネットマスク (Netmask[*])、Gateway の項、それぞれに対してアドレス情報を入力します。入力が完了しましたら「< Next >」を選択してください。

[*] は入力必須項目です



```
File
InterSec Network Configuration tool: Network (2/3)

Please input your InterSec server ip address and netmask.
The gateway is optional.
The "[*]" means information is required.
To access the next item,press the <TAB> key.

IP address[*]:      [ _          ]
Netmask[*]:         [           ]
Gateway:            [           ]

< Previous > < Next >

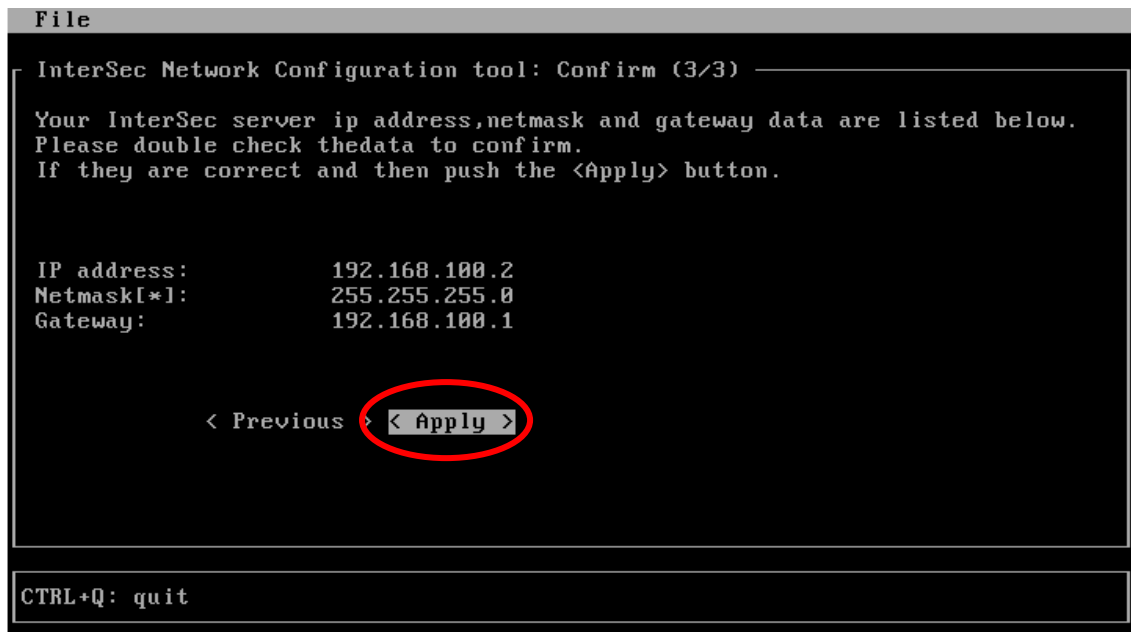
CTRL+Q: quit
```



IP address はネットワーク上の他の機器と重複しないアドレスを設定してください。重複したアドレスを設定した場合、本機の初期導入が行えなくなる可能性があります。

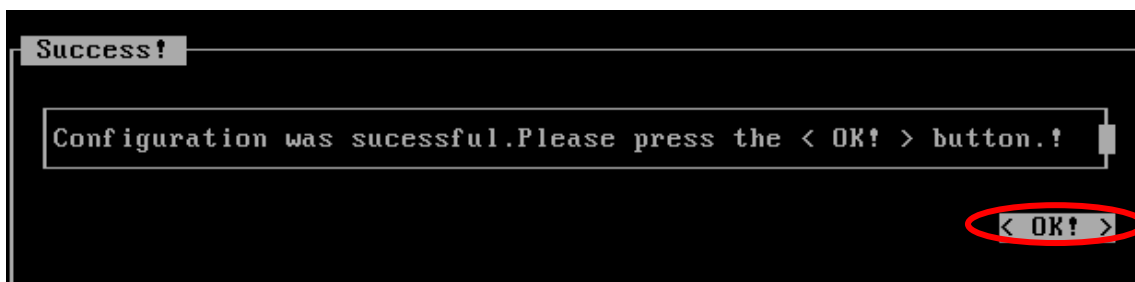
(4) 確認画面が表示されます。

入力した内容を確認してください。入力した内容に問題がなければ[< Apply>]を選択してください。ネットワーク設定を行います。訂正したい場合は、[< Previous>]を選択し (3)からやり直してください。



(5) 完了画面が表示されます。

[< OK! >]を選択してください。入力された IP アドレスが有効な状態になります。

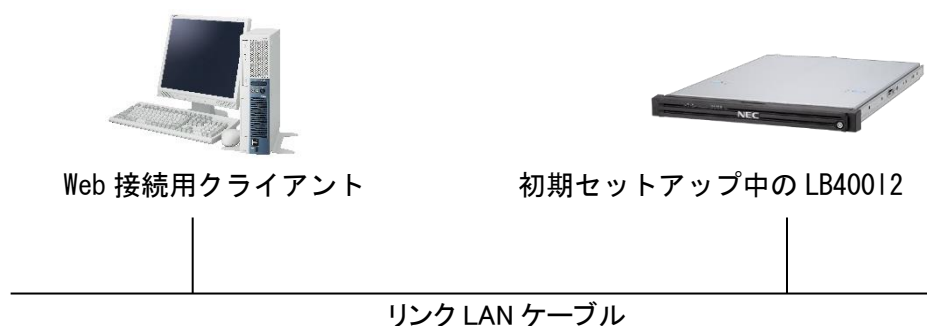


以降は「4章 初期導入」の手順に従い、初期導入を開始してください。

変更した初期IPアドレスを確認したい場合は、「6.3. 初期IPアドレス設定後のIPアドレスを確認する」を参照してください。

3.1.2. クライアント PC による手順

本体とクライアント PC の準備を行います。



項目	説明
Web 接続用クライアント PC	Internet Explorer から Web 接続して初期 IP アドレスを変更します。ご使用になるブラウザは、Internet Explorer 11 以上を推奨します。
初期セットアップ中の LB400I2	初期 IP アドレスは以下のとおりです。 LAN ポート : LAN1 (eth0) IP アドレス : 192.168.250.250 ネットワークマスク : 255.255.255.0 ホスト名 : intersec.domain.local
リンク LAN ケーブル	クライアント PC と LB400I2 サーバの LAN インタフェース (LAN1 (eth0)) に接続します。



LAN ケーブルを接続する場合の LAN ポートとインタフェース (eth) については、「6.1. LAN ポートとインタフェース (eth) 番号について」を参照してください。

3.1.2.1. Web 接続用クライアント PC の準備

Web ブラウザを介して本体の初期 IP アドレスを変更するために使用するクライアント PC (Windows マシン) を用意してください。

クライアント PC の IP アドレスは、本体と同じネットワークの IP アドレス (例 : 192.168.250.1) を設定してください。

3.1.2.2. LAN ケーブルでの接続

クライアント PC と本体を LAN ケーブルで接続後、本体の電源ボタンを押して起動してください。

本体の起動後、背面の「LINK」ランプが点灯していることを確認してください。

クライアント PC から ping コマンドなどを使用して接続可能な状態であることを確認してください。

[実行例]

```
C:\> ping 192.168.250.250
```

```
Pinging 192.168.250.250 with 32 bytes of data:
```

```
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
```

```
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
```

```
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
```

```
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
```

```
Ping statistics for 192.168.250.250:
```

```
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
```

```
Approximate round trip times in milli-seconds:
```

```
    Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

本体と通信できない場合は、クライアント PC のネットワーク設定やネットワークケーブルの状態が正しいか確認してください。

※ 他の機器が存在するネットワーク環境に接続する場合は、本体の初期 IP アドレスと他機器の IP アドレスが重複していないか確認してください。

3.1.2.3. 初期 I P アドレス変更 Web 画面への接続

クライアント PC の Web ブラウザから LB400I2 の初期 IP アドレス設定画面に接続してください。クライアント PC の Web ブラウザから以下の URL を指定して接続してください。

`http://192.168.250.250:50453/intersec-init-g/`

LB400I2 と正常に通信できない場合は、設定されているネットワークと接続できるように、クライアント PC のネットワーク設定を確認してください。

LB400I2 に接続すると、ユーザ名とパスワードの入力ダイアログが表示されます。



以下のユーザ名、ログインユーザ名、パスワードを入力して[OK]を押下しログインしてください。

ユーザ名 : root

パスワード : **初期パスワード(※)**



- ・ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

3.1.2.4. 初期アドレスの変更

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

(1) はじめにが表示されます。[次へ]を押下してください。

language Japanese

はじめに

[ヘルプ](#)

InterSec Initialize Network Configuration Tool

■ はじめに

初期ネットワークアドレスの変更設定をおこないます。
[次へ]ボタンをクリックすると、初期ネットワークアドレスの変更設定を開始します。
[中止]ボタンをクリックすると、初期ネットワークアドレスの変更設定を中止しシステムをシャットダウンします。

中止 前 次へ

(2) 変更後の初期 IP アドレスを指定します。

必要な項目に入力を行い、[次へ]を押下してください。

なお、IP アドレス、サブネットマスクは必須入力項目です。

language Japanese

ネットワーク設定

[ヘルプ](#)

InterSec Initialize Network Configuration Tool

■ ネットワーク設定

初期ネットワークアドレスを変更します。

LAN1(eth0)ネットワーク、デフォルトゲートウェイの設定をおこないます。
*の付いている項目は、必須入力項目です。

*IPアドレス:

*サブネットマスク:
☐ 255.255.255.0
☐ 255.255.255.128
☐ 255.255.0.0
☐ 255.255.128.0
☐ 255.0.0.0
☐ 255.128.0.0
☒ 255.255.254.0

デフォルトゲートウェイ:

中止 前 次へ

- (3) 「設定確認」画面が表示されます。(2)で入力した内容をご確認ください。
入力した内容に問題がなければ、[次へ]を押下してください。

設定確認

language Japanese

[ヘルプ](#)

InterSec Initialize Network Configuration Tool

■ 設定確認

初期ネットワーク設定の内容を確認してください。

以下の設定でよろしければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。設定をおこないます。
[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。

IPアドレス:	192.168.1.133
サブネットマスク:	255.255.254.0
デフォルトゲートウェイ:	192.168.0.1

- (4) ネットワーク設定が実行されます。初期導入を続けて行うには、しばらく経ってから以下の画面より、初期設定画面のリンクをクリックし、初期導入画面を開き、初期導入を行ってください。

初期ネットワークアドレス変更

language Japanese

[ヘルプ](#)

■ 初期ネットワーク変更

ネットワーク初期設定を行っています。
しばらく経ってから、以下のリンクより初期設定をおこなってください。

[初期設定画面](#)



重要

初期設定画面への接続は、初期 IP アドレスの設定を行った、LB400I2 の新しい IP アドレスに、クライアント PC からアクセスできる環境であることが必要です。ネットワークセグメントを変更した場合等は、クライアント PC の設定変更が必要となりますのでご注意ください。

以降は「4章 初期導入」に従い、初期導入を行ってください。

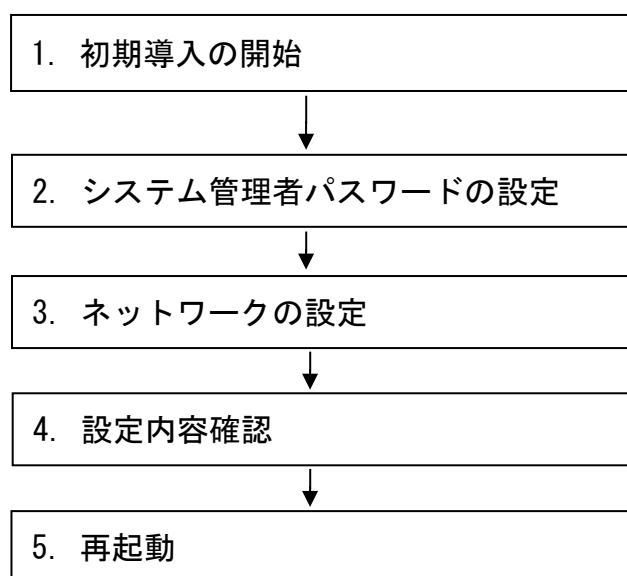
4章 初期導入

4.1. 初期導入について

LB400I2 の初期導入は、Windows クライアント PC（以下、クライアント PC）から Web ブラウザを使用して行います。

4.2. 初期導入の流れ

LB400I2 の初期導入の流れは以下のとおりです。運用するネットワーク環境に合わせて初期設定を行ってください。



4.2.1. 初期導入の準備

LB400I2の初期導入は、「3.1. 初期IPアドレスの設定」後に行います。

初期IPアドレスを変更していない場合は、以下の設定となっています。

LAN ポート	: eth0
IP アドレス	: 192.168.250.250
ネットワークマスク	: 255.255.255.0
ホスト名	: intersec.domain.local

初期導入を行うため、LB400I2をお客様環境への設置（業務LAN環境への接続など）してください。初期IPアドレスで設定したIPアドレスに対してWeb接続可能なクライアントPC（Windowsマシン）を用意してください。

4.2.2. 初期導入画面への接続

LB400I2の初期導入実行に際し、別途ご用意いただいたクライアントPCのWebブラウザからLB400I2への接続、およびログインを行ってください。

※ 以下の説明では、本体に設定したIPアドレスを「192.168.250.250」として説明します。
適宜お客様で設定したIPアドレスに読み替えてください。

■ LB400I2 初期導入画面への接続

LB400I2の初期導入画面には、クライアントPCのWebブラウザから以下のURLを指定して接続してください。

`http://192.168.250.250:50453/`

接続できない場合、クライアントPC側から、ping コマンドなどを使用して通信状態を確認し、クライアントPCのネットワーク設定を確認してください。

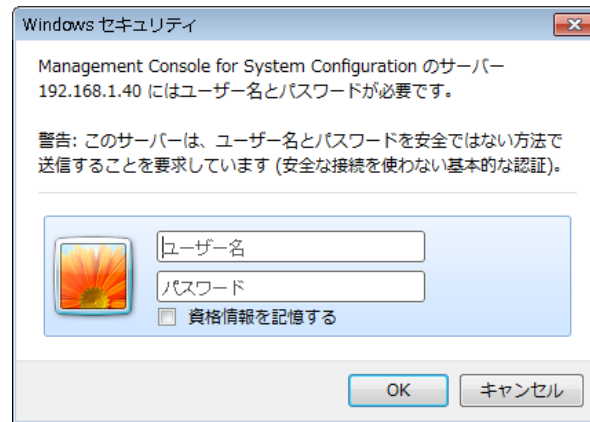
[実行例] C:¥> ping 192.168.250.250



LB400I2のIPアドレス設定状況を確認したい場合は、「6.2. 初期IPアドレス設定後のIPアドレスを確認する」を参照ください。

■ LB40012 初期導入画面へのログイン

LB40012 の初期導入画面に接続すると、ユーザ名とパスワードの入力ダイアログが表示されます。



初期導入画面へのログインユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : root

パスワード : **初期パスワード(※)**



- ・ ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・ 初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

4.2.3. 初期導入の実行

(1) 初期設定の開始

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。Select Language で言語を選択して [Start] を押下し、初期導入を実施します。

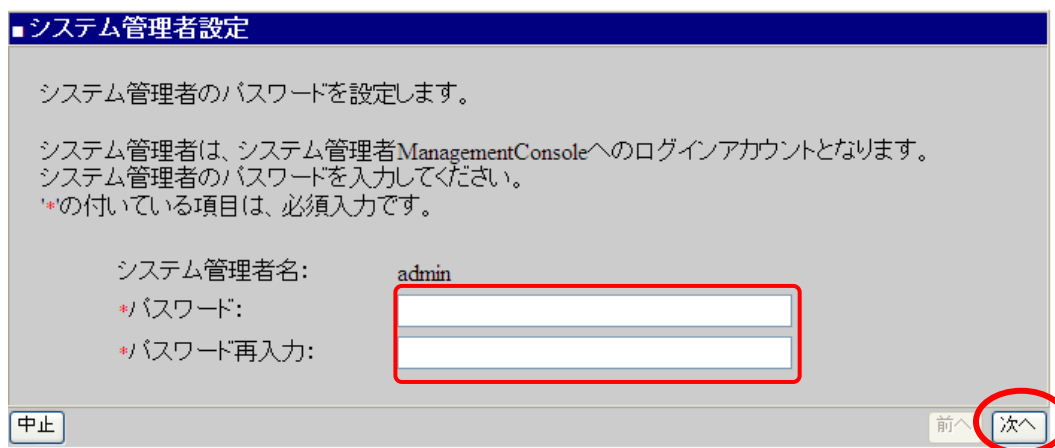


The dialog box titled "Initial Setting" contains the following text: "Initial Setting the system." followed by "When [Start] button is clicked, Initial Setting is begun." and "When [Cancel] button is clicked, Cancels initial setting, and shut down the system." Below this is a "Select Language" section with a dropdown menu showing "Japanese". At the bottom are two buttons: "Cancel" and "Start". The "Start" button is circled in red.

メモ：初期設定を中断したい場合は、各設定画面の [Cancel] を押下します。

(2) システム管理者設定

ここでは、システム管理者のパスワードの設定を行います。
システム管理者のアカウントは “admin”（固定）です。
システム管理者用のパスワードを「パスワード」「パスワード再入力」に入力して [次へ] を押下します。 システム管理者名のパスワードの指定は必須です。



The dialog box titled "■システム管理者設定" contains the following text: "システム管理者のパスワードを設定します。" followed by "システム管理者は、システム管理者ManagementConsoleへのログインアカウントとなります。システム管理者のパスワードを入力してください。" and "*の付いている項目は、必須入力です。" Below this are three input fields: "システム管理者名:" with the value "admin", "*パスワード:", and "*パスワード再入力:". The password fields are grouped by a red box. At the bottom are two buttons: "中止" and "前へ 次へ". The "次へ" button is circled in red.



パスワードにスペースを使用することはできません。

メモ：システム管理者のアカウントは、初期導入完了後、システム管理者 Management Console 画面で変更できます。

(3) ネットワーク設定

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

「ホスト名 (FQDN)」にはセカンドレベル以上のドメイン名を含むホスト名を入力してください。

「ホスト名 (FQDN)」、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリネームサーバ」、「セカンダリネームサーバ」に設定内容を入力し、[次へ] を押下します。

※ 項目名の先頭に「*」があるものは必須入力項目です。

項目名	設定内容
* ホスト名	LB400I2 の FQDN を設定します
* IP アドレス	LB400I2 の IP アドレスを設定します
* サブネットマスク	ネットワークマスクを設定します
* デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します
プライマリネームサーバ	プライマリネームサーバを設定します
セカンダリネームサーバ	セカンダリネームサーバを設定します

■ ネットワーク設定

システムのネットワーク基本情報を設定します。

LAN1(eth0)ネットワーク、デフォルトゲートウェイ、名前解決(DNS)サーバの設定をおこないます。
*の付いている項目は、必須入力です。

*ホスト名(FQDN):

*IPアドレス:

*サブネットマスク:

*デフォルトゲートウェイ:

プライマリネームサーバ:

セカンダリネームサーバ:

lb400i-79.iplb.local

192.168.2.79

☒ 255.255.255.0

☐ 255.255.255.128

☐ 255.255.0.0

☐ 255.255.128.0

☐ 255.0.0.0

☐ 255.128.0.0

☐

192.168.2.1

192.168.2.2

中止

前へ

次へ

メモ : IP アドレスとサブネットマスクは現在設定されているものが表示されますので、特に変更する必要はありません

(4) 設定内容確認

入力した設定内容を確認してください。

設定内容に間違いがなければ、[次へ] をクリックしてください。

設定内容を変更する場合は、[前へ] をクリックして変更対象画面に戻り設定を修正してください。

■ 初期設定内容確認

初期設定の内容を確認してください。

以下の設定でよろしければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。設定をおこないます。
[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。

■ システム管理者設定	
管理者名:	admin
パスワード:	*
■ ネットワーク設定	
ホスト名(FQDN):	lb400i-79.ip[REDACTED]
IPアドレス:	192.168.2.79
サブネットマスク:	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ:	192.168.2.1
プライマリネームサーバ:	192.168.2.2
セカンダリネームサーバ:	未設定

(5) システム再起動

設定を有効にしてシステムを運用可能な状態にするため、システムを再起動します。

[システムを停止する] を押下した場合、システムは停止状態となりますので、再度起動(パワーオン)を行ってください。

[システムを再起動する] を押下した場合、システムの再起動を行います。

■ システム再起動

初期設定を完了しました。
設定を有効にするために、システムを再起動してください。

以上で、初期導入は終了です。完了後、LB400I2の詳細な設定や管理は、管理コンソール「Management Console」画面にて行います。詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

5章 注意事項

1. EXPRESSBUILDERによるセットアップは行えません。InterSec専用のインストールディスクからのみ実施できます。
2. 二重化構成の構築など複数台のLB400I2を導入する場合は、必ず初期IPアドレスを変更してから業務LANに接続してください。初期IPアドレスを変更せず同時に業務LANに接続を行った場合、IPアドレスの重複が発生して正しく初期導入が行えません。
3. 「4章 初期導入」実施後は初期IPアドレスが変更されたと判断し、「3. 1. 初期IPアドレスの設定」のいずれの手順でもIPアドレスの変更はできません。
4. LB400I2へのケーブル接続について

LAN ポート 1 を必ず運用時のネットワークに接続してください。

セットアップ(Webブラウザを使用)では、LAN ポート 1 (システムでは、eth0 として扱われます)を使用して進めます。

LAN ポートとインタフェース(eth)は、「6. 1. LAN ポートとインタフェース(eth)番号について」を参照してください。

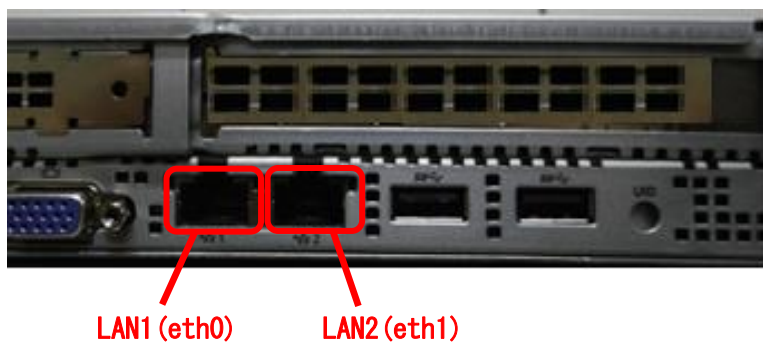
6章 付録

6.1. LAN ポートとインタフェース (eth) 番号について

ご使用のサーバ構成によって本体装置の LAN ポートとシステムが使用するネットワークインタフェース (eth) 番号は以下のように変わります。LAN ケーブルを接続する際は、ご注意ください。

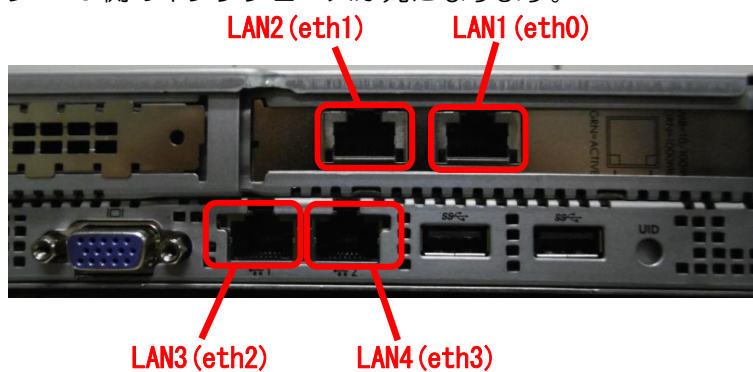
- N8100-2766Y / Express5800/R110j-1

オプション NIC (N8104-178) 非搭載時



オプション NIC (N8104-178) 搭載時

オプション NIC 側のインタフェースが先になります。



6.2. ESMPRO/ServerAgentService を利用する

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgentService」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視する場合にこのソフトウェアを使用してください。監視には、別途 ESMPRO/ServerManager がセットアップされた PC（管理コンピュータ）が必要です。

詳しくは、『ESMPRO/ServerAgentService ユーザーズガイド (Linux 編)』を参照してください。



「ESMPRO/ServerManager」は、LB400I2 本体ではご利用できません。

6.3. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する

初期 IP アドレスの設定後に、正しく IP アドレスが設定されているか確認するためには、本体にディスプレイとキーボードを接続する必要があります。

「3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順」の章を参考に、以下のコマンドを入力することで、現在、設定されている IP アドレスが表示されます。

root アカウントのプロンプトから以下のコマンドを実行します。

```
intersec-setupinfo
```

実行結果イメージ

```
[root@intersec ~]# intersec-setupinfo
IP address: 192.168.1.239
Netmask    : 255.255.254.0
Gateway    : 192.168.0.1
[root@intersec ~]# _
```

誤って初期 IP アドレスを設定した場合は、「3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順」に従って、再度初期 IP アドレスの設定を行ってください。

なお、「4 章 初期導入」実施後に、IP アドレスを変更する場合は、管理コンソール「Management Console」画面から実行してください。

詳細は、LB40012 の『ユーザーズガイド』を参照してください。

6.4. RAID 構成を確認する

- N8100-2832Y / Express5800/R110j-1 (2nd-GEN)

Express5800/R110j-1 (2nd-GEN) の『メンテナンスガイド(共通編)』－「1 章 便利な機能」－「b) メンテナンスの実行」－「(7) RAID の構成」を参照して確認してください。(改版により章番号が変更になる場合がございます)